



平成 26 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
代表者名 代表取締役社長 ホーン・チョン・タ
(コード：9704、東証第1部)
問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹
(TEL. 03-3436-1860)

平成 25 年 12 月期 通期業績予想の修正並びに
営業外損益および特別損失の計上に関するお知らせ

平成 25 年 8 月 12 日に公表いたしました平成 25 年 12 月期（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）通期業績予想を修正いたします。

また、平成 25 年 12 月期（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）において、営業外損益および特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 12 月期通期連結業績予想値の修正
(平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	連結売上高	連結 営業利益	連結 経常利益	連結 当期純利益	1株当たり 連結当期 純利益
前回発表予想 (A)	7,000	250	85	△160	△0 円 58 銭
今回修正予想 (B)	7,050	△50	△170	△270	△0 円 98 銭
増減額 (B-A)	50	△300	△255	△110	
増減率 (%)	0.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 12 月期)	4,275	△2,053	△2,390	△2,385	△8 円 71 銭

(参考) 平成 25 年 12 月期通期個別業績予想値の修正
(平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	130	25	△60	△0 円 22 銭
今回修正予想 (B)	175	△260	△330	△1 円 20 銭
増減額 (B-A)	45	△285	△270	
増減率 (%)	34.6	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 12 月期)	350	△396	△2,556	△9 円 33 銭

2. 修正の理由

平成 25 年 12 月期通期連結業績予想の修正につきましては、売上高についてはほぼ前回予想どおりとなる見込みですが、利益面では、宿泊事業部門の主力ホテルにおいて前期に実施したリブランド等による増収効果の立ち上りが遅れたこと等により、全社費用の一般管理費をまかなうに至らず、営業利益については前回予想を 300 百万円下回り 50 百万円の損失となる見込みです。

経常利益については、営業外費用の豪州の持分法適用関連会社における分譲住宅の販売不振を要因とする投資損失の増加等により、前回予想を 255 百万円下回り 170 百万円の損失となる見込みです。

当期純利益については、前述の経常損失および後述の特別損失の計上等により前回予想を 110 百万円下回り 270 百万円の損失となる見込みです。

3. 営業外損益および特別損失の計上

(1) 為替差益の増加

平成 25 年 12 月期第 3 四半期連結累計期間において円安の影響等により 25 百万円の為替差益を計上していましたが、その後の為替相場の変動等により、為替差益は 62 百万円に増加いたしました。

これは、平成 25 年 12 月期期末（平成 25 年 12 月末日）時点において、当社保有の外貨建資産を同日の為替相場で評価したことによる為替差益によるものであります。

(2) 貸倒引当金繰入額

当社の連結子会社であるバタ・インターナショナル社が出資する豪州の住宅等不動産開発事業の不振等により、当社が同社に融資した貸付金に対し、貸倒引当金繰入額 298 百万円（個別）を営業外費用に計上いたします。

(3) 減損損失

当社の連結子会社である株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント伊豆が運営する今井浜温泉事業において収益性の低下により減損の兆候が認められたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有し同社に賃貸する同事業用資産について、減損損失 58 百万円を特別損失に計上いたします。

(4) 関係会社株式評価損

当社の連結子会社である株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント伊豆の純資産額と当社が保有する同社株式の簿価との乖離から、関係会社株式評価損 4 百万円（個別）を特別損失に計上いたします。

以上